

浜の情報：県北水産業普及指導センター
令和2年10月9日

県北の秋の魚「シイラ」の水揚げが始まりました。

平戸市生月町周辺で定置網漁業によるシイラの水揚げが本格化しています。

この海域は、生月島と平戸島に囲まれた湾になっており、北風に乗ってトビウオが来遊し、それを餌にシイラが追ってくる好漁場となっています。

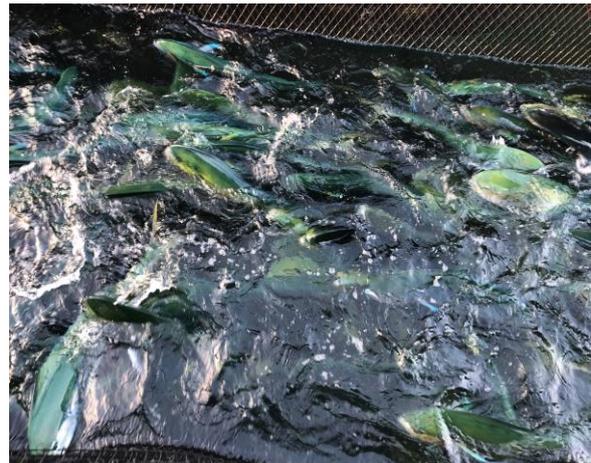
館浦漁協の藤永漁業士が専長を務める大型定置では、シイラが10缶/日(900kg/缶)程度水揚げされています。10月~11月にかけて迎える盛漁期には、この時期の3~4倍に漁獲量が増える見込みとなっています。

シイラは別名「金山(かなやま)」とも呼ばれ、お金の山の名前のとおり地域経済を潤す重要な魚種となっており、関係者からは今後の豊漁に大きな期待が寄せられています。

この時期のシイラは脂がほどよく乗っており、刺身で大変美味しくいただけますので、是非食べてみてはいかがでしょうか。



揚網作業中の藤永専長



箱網の中にはシイラがたくさん



船倉に取り上げ



水揚げされたシイラ